

第99回日本病理学会総会ランチョンセミナー ウイメンズヘルスの視点からみた“がん診断とがん治療”

・・・患者の意思決定に医療者はどのように関わるべきか？・・・

日時

平成22年4月29日（木） 11:40～12:40

（ランチョンセミナーの会場はその前のセッションから聴講可能です。お早めにおはいりください）

場所

京王プラザホテル E会場 42F

参加費

コメディカル（保健医療者）・学生 3000円

（お早めにお申し込みください）

※受付はHAP受付にて11:30までにお済ませ下さい。なるべく事前の申し込みをFAXにてお願いします。
※当日の学会聴講は可能です。 ※11:30までに定員をオーバーした場合には入場できません。

HAPのHPからも申し込みます。
<http://www.hap-fw.org>

定員

170名

（定員になり次第締め切ります。早めに裏面記載の上FAX等で御申込ください）

テーマ

テーマ女性のがんとして代表的な乳がん・子宮がんの診療を受ける側の患者の視点をふまえ、医療者がどのようにその診療の意思決定に関われるのかを実際の相談事例をもとに考える。日常、コメディカルが触れることの少ない臨床第一線で活躍する2名の女性医師（病理医、手術執刀医）から最新の情報と課題の提供をしていただき適正な情報の共有化を図る。

プログラム詳細

座長(ナビゲーター) **太田博明**先生(国際医療福祉大学 教授、山王メディカルセンター 女性医療センター長)
宮原富士子(NPO法人21世紀ウイメンズヘルス研究会)

ナレーション演出 **高橋悠玄**(ドラマライブ・プロジェクト主宰)

プロローグ[10分] **がん哲学外来**・・・相談事例紹介

講演Ⅰ **がん細胞が見出されたとき**・・・病理診断の現場で
「病理診断による確定診断」「術中病理診断」どのように行われているのか?
梅村しのぶ先生(東海大学 病理)

講演Ⅱ **子宮摘出手術 子宮喪失症候群における患者の心を考える**
婦人がん手術の執刀医師の立場から思うこと
吉形玲美先生(東京女子医科大学 産婦人科)

エピローグ **明日からの日常診療における保健医療者の課題**(BrushUp)
乳房・子宮・卵巣喪失者のメンタルサポート
武者稚枝子先生(東京女子医科大学産婦人科)



主催 **第99回日本病理学会**

共催

特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects for Women
特定非営利活動法人21世紀ウイメンズヘルス研究会
株式会社ジェンダーメディカルリサーチ (略称HAP)

裏面申込書に記載の上、お早めにFAXで御申込下さい。

